

松嶋夜話 卷之下 28

〔原文〕支笠桑三國名勝志流布于世矣

〔訓読〕支笠桑の三國の名勝志は世に流布す

〔原文〕四夷邊塞之志記多如不聞見

〔訓読〕四夷の邊塞の志記は多く見聞せざるが如し

〔原文〕余住于松島日有大和當麻之巡國僧梅氏者

〔訓読〕余松島に住する日、大和當麻の巡國の僧梅氏なる者有り

〔原文〕听松前狄千島白岳有善光寺如來游舎

〔訓読〕松前の狄の千島の白岳に善光寺の如來の游舎有り

〔原文〕東行參禮留于松府數旬月

〔訓読〕東行參禮し、松府に留まること數旬月

〔原文〕歸日又來松島話其島物色

〔訓読〕歸る日又た松島に來りて其の島の物色を話す

〔原文〕命童侍記之

〔訓読〕童侍に命じて之を記せしむ

〔原文〕狄島在松前府東西而船路兩行疏

〔訓読〕狄が島は松前府の東西に在て、船路兩行に疏（おろそ）かる

〔原文〕厥東距松府歷五百餘里島濱五十餘所

〔訓読〕厥の東は松府を距てること五百餘里、島濱五十餘所を歴て

〔原文〕行行至喜伊達不島

〔訓読〕行き行きて喜伊達不島に至る

〔原文〕是松府朝觀狄族也

〔訓読〕是れ松府朝觀の狄族なり

〔原文〕其間去府三十里可

〔訓読〕其の間府を去ること三十里可（ばかり）

〔原文〕有波古多天島

〔訓読〕波古多天という島有り

〔原文〕松府商民家居

〔訓読〕松府の商民家居す

〔原文〕復從此處阻四十五里

〔訓読〕復た此の處より四十五里を阻（へだ）て

〔原文〕有白之岳一座山

〔訓読〕白が岳一座山有り

〔原文〕松府道俗齋糧詣之

〔訓読〕松府の道俗、糧を齋（もた）して之を詣ず

〔原文〕便善光寺如來游舎者也

〔訓読〕便ち善光寺如來の游舎という者なり

〔原文〕復厥西距松府四百餘里

〔訓読〕復た厥の西、松府を距てること四百餘里

〔原文〕島數廿五六處

〔訓読〕島の數廿五六處にして

〔原文〕至相也所

〔訓読〕相也という所に至る

〔原文〕皆松府朝來之狄也

〔訓読〕皆松府朝來の狄なり

〔原文〕其間有久末伊之濱

〔訓読〕其の間に久末伊之という濱有り

〔原文〕去府三十里許

〔訓読〕府を去ること三十里許り

〔原文〕松府商民家居

〔訓読〕松府の商民家居す

〔原文〕然而此相也之表嚮千里可

〔訓読〕然して此の相也の表、嚮千里可

〔原文〕嚮千里可

〔訓読〕嚮き千里可(ばかり)は、

〔原文〕皆松前不庭之夷狄也

〔訓読〕皆松前不庭の夷狄なり

※不庭：朝廷に來貢しないこと。転じて、時の権力者に反抗すること。また、その者。

〔原文〕松府曰之赤狄

〔訓読〕松府之を赤狄と曰ふ

〔原文〕此舩路逼北高麗韃靼地也

〔訓読〕此の舩路は北高麗韃靼の地に逼るなり

〔原文〕復是相也近濱有加羅不途島

〔訓読〕復た是の相也の近濱に加羅不途という島有り

〔原文〕此處夷狄恒入北高麗

〔訓読〕此の處の夷狄は恒に北高麗に入りて

〔原文〕購金地等織物或巢玉

〔訓読〕金地等の織物或いは巢玉を購なう

〔原文〕來賣買松前

〔訓読〕來りて松前に賣買す

〔原文〕府俗曰之加羅不途織加羅不途玉

〔訓読〕府俗に之を加羅不途織、加羅不途玉と曰ふ

〔原文〕此玉實瓦陶也

〔訓読〕此の玉實は瓦陶なり

〔原文〕又此相也近邊

〔訓読〕又此の相也の近邊

〔原文〕山澤藪野中

〔訓読〕山澤藪野の中に

〔原文〕夏秋之交

〔訓読〕夏秋の交わる

〔原文〕鶴雁相鳩

〔訓読〕鶴雁相い鳩(やす)んじて

〔原文〕葺巢孚子

〔訓読〕巢を葺(つくろ)ひて、子を孚なふ

〔原文〕等秋尾子

〔訓読〕秋を等って子を尾(ひい)て

〔原文〕又赴諸夏暖國

〔訓読〕又諸夏暖國に赴く

〔原文〕是世俗曰鶴雁先春歸塞者是也

〔訓読〕是れ世俗の鶴雁春に先んじて塞に歸えると曰ふ是なり

〔原文〕復此方從府阻二百六十餘里

〔訓読〕復た此の方府より二百六十餘里を阻みて

〔原文〕有伊之加利島

〔訓読〕伊之加利という島有り

〔原文〕俚俗傳言

〔訓読〕俚俗傳へて言ふ

〔原文〕昔判官源氏逃於衣川流浪此地

〔訓読〕昔判官源氏、衣川に逃げ、此の地に流浪す

〔原文〕島之里魁其名鬼岩者持美媳一子

〔訓読〕島の里魁、其の名は鬼岩という者、美媳一子を持つ

〔原文〕看源氏雄機

〔訓読〕源氏が雄機を看て

〔原文〕配之

〔訓読〕之に配す

〔原文〕源氏聿戾止焉

〔訓読〕源氏聿いに焉に戾止す

〔原文〕此濱夷族至今

〔訓読〕此の濱の夷族今に至る

〔原文〕身美婦子

〔訓読〕美婦子を身（みごも）る

〔原文〕故俗曰美女島也

〔訓読〕故に俗に美女島と曰ふなり

〔原文〕奇態有謂夷

〔訓読〕奇態の謂い有り

〔原文〕從是番俗威源氏爲神天思矣

〔訓読〕是れより番俗源氏を威（おど）して、神天の思ふを爲す

〔原文〕因崇之曰久留部加茂伊

〔訓読〕因りて之を崇めて久留部加茂伊と曰ふ

〔原文〕蓋加茂伊仰神天主君之番語也

〔訓読〕蓋し加茂伊は神天主君を仰（あおの）くの番語なり

〔原文〕復此伊之加利有大河

〔訓読〕復た此の伊之加利に大河有り

〔原文〕横三里可

〔訓読〕横三里可（ばかり）

〔原文〕川迦百里餘

〔訓読〕川迦ること百里餘

〔原文〕鮭魚夥矣

〔訓読〕鮭魚夥し

〔原文〕軋鮭名産

〔訓読〕軋鮭の名産

〔原文〕此所方物也

〔訓読〕此の所の方物なり

〔原文〕然而觀其人物

〔訓読〕然して其の人物を觀るに

〔原文〕男子鬆髮不結

〔訓読〕男子髮を鬆(ちら)して結ばず

〔原文〕耳著於環

〔訓読〕耳に環を著く

〔原文〕女子環有組緒

〔訓読〕女子は環に組緒有り

〔原文〕衣服皆單之葛布

〔訓読〕衣服は皆單なる葛布

〔原文〕限於膝矣

〔訓読〕膝に限る

〔原文〕所謂被髮左襟者也

〔訓読〕所謂髮を被(こう)むり襟を左にする者なり

〔原文〕面貌眉間一莖

〔訓読〕面貌は眉間一莖

〔原文〕眼子丸而如鳥目

〔訓読〕眼子は丸くして鳥目の如し

〔原文〕男子色黒四肢茸毛

〔訓読〕男子は色黒く、四肢毛を茸(ふ)く

〔原文〕力量弱也

〔訓読〕力量弱し

〔原文〕女子極而色白

〔訓読〕女子は極めて色白く

〔原文〕項力強矣

〔訓読〕項力強し

〔原文〕樵山負薪

〔訓読〕山に樵(き)こり薪を負う

〔原文〕額系千斤

〔訓読〕額に千斤を系ぎ

〔原文〕又能入水中

〔訓読〕又た能く水中に入り

〔原文〕歷時不息

〔訓読〕時を歴て息つがず

〔原文〕漁游恣意

〔訓読〕漁游意を恣にす

〔原文〕脣吻與爪甲黛矣

〔訓読〕脣吻と爪甲に黛(かこ)つく

〔原文〕似知愧掩兩乳

〔訓読〕愧を知るに似て、兩乳を掩ふ

〔原文〕男女著履

〔訓読〕男女履を著けず

〔原文〕平生赤脚イテ

〔訓読〕平生赤脚にしてイテ(てきちよく)して

〔原文〕然足跟不穢

〔訓読〕然も足跟穢れず

〔原文〕游行徐歩

〔訓読〕游行には徐歩し

〔原文〕急走如飛

〔訓読〕急走には飛ぶが如し

〔原文〕赴大小行

〔訓読〕大小の行に赴く

〔原文〕掘沙屏汚

〔訓読〕沙を掘りて汚れを屏（おお）ふ

〔原文〕是恐日月照臨之天威也

〔訓読〕是れ日月照臨の天威を恐れるなり

〔原文〕是故不造厠曰

〔訓読〕是の故に厠を造らず曰ふ

〔原文〕平生調度只佩刀一口耳

〔訓読〕平生の調度只だ佩刀一口のみ

〔原文〕彫角刻木

〔訓読〕角を彫り木を刻み

〔原文〕或造燕器類

〔訓読〕或いは燕器の類を造る

〔原文〕工巧精妙

〔訓読〕工巧精妙

〔原文〕非和人所覃

〔訓読〕和人の覃（およ）ぶ所に非ず

〔原文〕料其食料

〔訓読〕其の食料を料るに

〔原文〕得米醖酒

〔訓読〕米を得ては酒を醖して

〔原文〕不知做飯

〔訓読〕飯を做ることを知らず

〔原文〕朝夕食事禽獸魚肉

〔訓読〕朝夕の食事、禽獸魚肉

〔原文〕烹魚油飡

〔訓読〕魚油に烹て飡ひ

〔原文〕不飡鹽味鹵水

〔訓読〕塩味の鹵水を飡はず

〔原文〕日日獲山

〔訓読〕日日山に獲りして

〔原文〕幫閑充棟曰

〔訓読〕幫閑して棟に充つと曰ふ

〔原文〕復見其氣性得物報人

〔訓読〕復た其の氣性を見るに、物を得ては人に報ず

〔原文〕又不典不取不與矣

〔訓読〕又た典ぜされば、取らず與へず

〔原文〕常訪隣家

〔訓読〕常に隣家を訪ね

〔原文〕主夫不處不入其扃

〔訓読〕主夫處らざれば、其の扃に入らず

〔原文〕固避婦疑也

〔訓読〕固く婦の疑いを避けるなり

〔原文〕苟有直有義乎

〔訓読〕苟(まこと)に直有り、義有るか

〔原文〕吁夷狄有義

〔訓読〕吁、夷狄の義有るは

〔原文〕勝諸夏罔

〔訓読〕諸夏の罔きには勝れり

〔原文〕復耳常語

〔訓読〕復た常語を耳くに

〔原文〕和人曰志也茂

〔訓読〕和人を志也茂と曰ひ

〔原文〕神天主君曰加茂伊

〔訓読〕神天主君を加茂伊と曰ふ

〔原文〕僧人曰部素利

〔訓読〕僧人を部素利と曰ひ

〔原文〕男子曰阿以農

〔訓読〕男子を阿以農と曰ひ

〔原文〕女子曰免農古之

〔訓読〕女子を免農古之と曰ふ

〔原文〕米子曰志也末奴

〔訓読〕米子を志也松奴と曰ひ

〔原文〕飯曰阿末茂

〔訓読〕飯を阿末茂と曰ひ

〔原文〕酒曰部幾利

〔訓読〕酒を部幾利と曰ふ

〔原文〕煙筒曰勢禮保

〔訓読〕煙筒を勢禮保と曰ふ

〔原文〕等番語不乙也

〔訓読〕等の番語乙ならざるなり

〔原文〕然松府狄島行程有東西

〔訓読〕然して松府狄島の行程東西有り

〔原文〕而舩路疏矣

〔訓読〕舩路疏ら

〔原文〕其巡行前程僉落北狄也

〔訓読〕其の巡行の前程、僉な北狄に落ちるなり

〔原文〕故古來松前狄島用此狄字云

〔訓読〕故に古來、松前の狄が島には、此の狄の字を用ゆと云う

〔原文〕復松前狄千島之總管也

〔訓読〕復た松前が狄が千島の總管なり

〔原文〕將帥也云云

〔訓読〕將帥なり、云ん云ん

〔原文〕夜話已了更點鐘鳴

〔訓読〕夜話已に了れば、更點鐘鳴く

〔原文〕爲梅氏告罷云

〔訓読〕梅氏の爲に罷を告げて云う